



ゆうメール

誌名
青峰同窓会会報

発行日 2025年10月
発行 国立鈴鹿工業高等専門学校 青峰同窓会 広報委員会
〒510-0294 鈴鹿市白子町 TEL059-386-1031 E-mail:almn@suzuka-ct.ac.jp

SEIHO-DOSOKAI

青峰同窓会

会報
2025年号



INDEX

会長挨拶	1
学生主事挨拶	2
卒業生からの便り	3~4
■ 下野 幸助 ■ 内山 賢一	
転任教員挨拶	5
■ 横山 春喜	
退職教員挨拶	6
■ 飯塚 昇 ■ 伊藤 清	

新任教員挨拶	7
■ 園田 昭彦 ■ 東條 敏史	
お知らせ	8~10
■ 同窓会幹事より	
■ 同窓会会報郵送終了のお知らせ	
■ 高専祭のお知らせ	
2024年度 会計報告	9
編集後記	10



同窓生の皆さまへ

青峰同窓会 会長
本間 八重
(H7C卒)

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

昨年より鈴鹿高専同窓会の会長を務めさせていただいております(H7C卒)本間八重です。鈴鹿高専も創立63年となり1万人を超える卒業生の皆さまを代表するという大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

会長としての初仕事は、昨年度3月の卒業式への参列でした。旅立ちの日を迎えた若き卒業生たちに祝辞を贈るという貴重な機会をいただき、母校の伝統と未来を肌で感じるとともに、改めてこの学び舎の偉大さを実感いたしました。晴れやかな表情の学生たちを前に、自分自身の学生時代やその後の歩みを振り返る良い節目にもなりました。式の後になんと卒業生の保護者の中に、私の中学時代の同級生がいたことがわかり、思いがけない再会にびっくりし、自分たちが親世代となり、次の世代が羽ばたいていく場に立ち会えることは、なんとも感慨深いものでした。これからは数年は、そんな出来事が続くのかもしれません。

この一年、私自身にも大きな出来事がありました。2024年秋に日本代表として出場したミス世界コンテスト「I am Model Search Mrs International」にて、Mrs部門世界グランプリを受賞いたしました。自分自身の可能性を信じ、年齢や肩書きにとらわれず挑戦することが、いかに人生を豊かにするかを改めて実感した経験でした。そして、その原点には、鈴鹿高専で培った論理的思考や実践力、諦めない精神、仲間との切磋琢磨の日々があったと、今も心から感謝しています。

現在は、ラジオ局プロデューサーや、占い師という仕事を通じて人々の人生に寄り添いながら、かね

てより夢であったカフェなどの飲食事業にも参入したいと、遅ればせながら起業の準備もしています。一見、理系とは距離のある分野のように思われるかもしれませんが、実は裏側では、企画・分析・構築といった“高専脳”が存分に活かされています。

生成AIをはじめとする技術革新が加速し、価値観が急速に変化する今だからこそ、私たち高専卒業生が持つ「現場で考え、動く力」「人のために役立てる知恵」「人と人が繋がる力」が求められている時代であり、様々な環境で逞しく学んできた高専卒業生の役割はますます大きくなっていくと考えております。

これからも、母校と地域、そして世代を超えた同窓生をつなぐ橋渡しとして、さまざまな取り組みを進めてまいります。今後とも変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。



学生主事ご挨拶

学生主事
大貫 洋介

今年度から学生主事を拝命しました。教養教育科(数学)の大貫です。過分な任に戸惑いながらの毎日ですが、様々な学生活動において同窓会から多くのご支援とご期待をいただいていることを実感しております。今後とも、何卒よろしくお願いいたします。

私が本校に着任したのは2006(平成18)年、今年が切り良く20年目の教員生活になります。赴任当時、本校の教員としては珍しく先輩数学教員(安富先生)と相部屋で1年を過ごさせて頂き、学生との接し方、授業のあり方などをしっかり指導して頂いたことが昨日のことのよう思い出されます。「昔の高専は今とはずいぶん違ってね。」というお話をたくさん伺いました。「全寮制」「女子学生が少ない時代は一列縦隊で集団登校」「0限武道」「学校の前には何もなく、教室から白子の海がよく見える」「東海地区高専大会は学校施設で開催」など当時の印象としても、信じられないことばかりでした(真偽を未確認情報もあります)。

20年が過ぎ振り返ってみると赴任当時と変化した点も多くあるなあと懐かしく思い出されることばかりです。「クラブ活動への参加が任意に」「学寮の宿直が教員寮監から委託寮監へ」「2年生学外研修は海外へ(韓国、マレーシア、シンガポールを経て現在は台湾)」などなど(こちらは真実ばかりです)。学校の周囲にも住宅が増え、教室から白子の海を見ることも難しくなりました。

学生の活発な活動を支援する学生主事の立場に身を置き、改めて時代に併せて変化する必要があることと、時代に依らず変わってはいけない大切な部分があることを意識する必要性を実

感しております。私の赴任の頃から思い返すと、学生主事の任には土田先生(物理)、西岡先生(国語)、澤田先生(生物応用化学科)、下古谷先生(材料工学科)、下野先生(生物応用化学科)、仲本先生(物理)と錚々たるお名前が並びます。大先輩の教員と共に卒業生の皆様方が大切にしてきた本校の建学の精神である知徳・徳育・体育を兼ね備えた全人教育に資する学生指導を目指していきたいと思います。前述のように、クラブ活動を任意に移行した以降も本校のクラブ活動は活発です。今年も団体でテニス部男女、バスケットボール部女子、弓道部男女、剣道部男女、ハンドボール部男子、女子バレーボール部、個人では陸上競技部、テニス部、ソフトテニス部、柔道部、弓道部、剣道部、水泳部、卓球部が九州地区で実施される全国高専体育大会に出場します。HP等を用いて、全国大会結果等もご確認いただけると大変ありがたく存じます。

本校在学時に、新型コロナウイルスの影響を最も受けた最後の世代(令和2年度入学生)が昨年度卒業をし、マスク姿を見かける頻度も減りました。コロナ禍が昔の話題であるように学内の様々な場面で活気が戻ってきているところです。と同時にコロナ禍の影響は良くも悪くも我々の生活の一部になっていると感じることも多々あります。今年も11月1日、2日に高専祭を開催します。学生はコロナ禍を乗り越えて新しい高専祭を作るために懸命に活動しておりますので、現在の学生の姿を見るために、お時間の許す範囲でご来校を頂ければ幸甚に存じます。

卒業生からの便り

衆議院議員(三重2区) 下野 幸助 (H9E卒)



鈴鹿高専同窓会員の皆様、こんにちは。鈴鹿高専OB(H9E卒)衆議院議員の下野幸助です。2025年号の会報発行にあたり寄稿の機会を頂きありがとうございます。

私が入学した平成4年(1992年)は鈴鹿高専30周年を迎え、入学した4月末には久保田郁夫校長(当時)をはじめ関係者の皆様が協力して30周年記念式典が盛大に行われました。入学した4月、15歳だった私は、今でも華やかな式典で素晴らしい学校に入学できた嬉しい気持ちを覚えています。

翌年の平成5年(1993年)からは専攻科課程も始まりました。高専は5年一貫の教養教育及び実践的工学教育であり、専攻科はさらに幅広い基礎技術と高度な専門知識を有し、広い視野から社会の変化に的確に対応できる技術者を育成するために設置されました。

時代に即した技術者を養成する学校が、三重県鈴鹿市に創設されたことは地元の関係者の皆様をはじめ多くの皆様に心から感謝を申し上げたいと思います。特筆すべきこととして、高専が鈴鹿に設立されたことをご紹介します。今から約65年前、高度なものづくり人材を育成するべく、国会で高専法が成立しました。そして鈴鹿市出身の久保田藤麿 衆議院議員(当時)のご尽力もあり、昭和37年(1962年)に全国から選抜された国立12校の高専が1期校として認可され、鈴鹿の地に高専が設立されました。初代、校長の木村和三郎先生のエンジニアとジェントルマンを育成するという強い信念が今の鈴鹿高専生のDNAとして受け継がれていると私は確信しています。鈴鹿高専1期生の諸先輩方は来年2026年に満80歳を迎えられますが、多くの先輩方が今も現役で活躍されています。

さて、私が鈴鹿高専に入学したきっかけは父親が電気工事屋を営んでいたこともあり、電気工学に興味を持っていたからです。鈴鹿高専の電気工学科に入学し、山本教授(当時)の研究室で雷の研究をさせて頂きました。また、在学中は、水泳部に所属し、

4年生にキャプテンを務めるとともに全国大会が開催されることとなり、800m自由形で全国3位に入賞した事は良い思い出です。

鈴鹿高専の建学の精神である知・徳・体の人間教育を学ばせて頂きました。多くの関係者の皆様をはじめ、先輩、同級生、仲間の皆様に心から感謝したいと思います。鈴鹿高専を卒業後は、1997年に豊橋技術科学大学電気・電子工学課に編入学しました。専門の電気磁気材料や磁性体について学ばせていただいたのですが、私が大学時代に一番力を注いだのは主将を務めたトライアスロン部での活動でした。学業、スポーツを含め、学生時代に培った礎が、その後の人生、今の仕事に確実に活かされていると思っています。最初の就職先となった内閣官房内閣情報調査室は、日本のCIAとも称される 組織のため業務内容を詳らかにできませんが、私は初の理系プロパーとして採用されることになります。就職した2001年は、情報収集衛星を開発・運用・分析する内閣衛星情報センターが立ち上がったタイミングでもあり、私は理系の強みが生かしながら、組織が軌道に乗るまで仕事をさせて頂きました。その後、慶應義塾大学大学院、アイシン精機の経営企画室を経て、2011年から三重県議会議員を4期務め、2024年10月に衆議院選挙で初当選させて頂きました。

鈴鹿高専に素晴らしい教育理念を導入し、約60年にわたり多くの素晴らしい卒業生を輩出できたのは、久保田藤麿先生(元衆議院議員)、木村和三郎先生(初代校長)、矢野弥先生(2代目校長)、久保田郁夫先生(3代目校長)をはじめ多くの地元関係者の賜物であると深く敬意を表します。

高専の教育制度は日本のみならず、アジアをはじめ世界でも推進されています。2025年7月、天皇陛下はモンゴルのウランバートルにある日本の高専をモデルとした私立学校「モンゴルコーセン技術カレッジ」を訪ねられました。これからも鈴鹿高専をはじめ、高専の教育モデルが、日本のみならずグローバルで社会貢献できる人材育成の宝となることを願っています。

今回で、鈴鹿高専青峰同窓会の紙面での会報誌は最後とお伺いしていますが、これからも鈴鹿高専OB青峰同窓会員の皆様の情報共有をインターネットを通じて御覧頂ければ幸いです。

最後になりますが、同窓会員の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げてご挨拶とさせていただきます。

陸上部OB大集合 恩師勝田叡先生卒寿のお祝い 内山 賢一 (54M卒)

今年(2025年)は昭和100年。昭和10年生まれ之恩師勝田叡先生は90歳(卒寿)を迎えられました。

本年1月から卒寿祝いを計画し、5月24日白子ホテルグリーンパーク鈴鹿に陸上部OBが結集しました。2016年1月にOB会を開催し今回は5年後としていましたが、コロナの影響もあり4年遅れの開催となりました。前回の様子はWebサイトの青峰同窓会会報2016年号をご参照ください。

前回の名簿をもとに120名の連絡先調査から始めましたが10年余り経過するとなかなか連絡が取れません。取り纏めの方のご尽力で連絡が取れた人は84名(70%)。そのうち31名が白子に集合しました。取り纏めは1期～8期(43名)を6期山本俊二さん、9期～12期(12名)を12期伴茂昭さん、13期～17期(30名)を内山、18期～22期(35名)を18期佐野剛さんに担当していただきました。事務局4名の方(54C藤後さん55C藤井さん56C原さん56H前田さん)も併せてこの場を借りて御礼申し上げます。

今回は先生のご息女、衛藤久美子さん、ご令孫、オリンピック衛藤昂(えとうたかし)さん、同じくご令孫、教員・走り高跳び選手、勝田将(かつだしょう)さんも卒寿お祝いにご参加いただきました。

前回は18時開始でしたが、日帰りも可能でかつ十分な歓談時間を確保するため正午から3時間のお祝い会としました。開会1時間前の11:00から三々五々集合し、早くもロビーで幾重にも話の輪が咲き始めました。1期生の方は80歳、22期生の方は59歳。親子はほとんど年齢差がある元陸上部員が集合となりました。顔、体格は変われども誰もが一瞬にして高専時代の世界に舞い戻りました。それぞれは自分の4年上までの先輩、4年下まで後輩と一緒に活動した仲間です。年代毎に思い出話に花が咲くように、座席はくじでは決めず、1期生から年代順に丸

テーブルを6卓用意し座っていただきました。また予備椅子を各テーブルに1脚用意しテーブルを跨いでも座って話ができるように配慮しました。

1期生伊藤豊嗣さんの乾杯のご発声で開会です。話はやはり高専大会、合宿、先生との思い出話です。各人が5年間勉学に陸上に励んだ思い出が人の話を聞くことでさらに蘇り、話が尽きません。

歓談開始1時間後に若い人から順に以下7名の方に近況報告をしていただきました。19期阪口悟さん。16期寺尾憲二さん。14期上田康正さん。10期小中敏克さん。8期長谷克己さん。3期吉川精治さん。2期浜口宗幸さん。勝田先生とのエピソード・高専大会でのエピソード、現在の陸上との関わり等を熱く語っていただきました。エピソードは初めて聞く話もあり皆さんびっくりです。鈴鹿高専テクノプラザの会長で有られた小中さんにはテクノプラザのご紹介をしていただきました。

先生には名前入りのちゃんちゃんこを着用していただき各テーブルで歓談いただきました。勝田先生は10種競技の選手であったこともあり陸上部指導教官34年間の功労を事務局で10個に纏めて報告し、表彰状と総合優勝カップを贈呈させていただきました。また「まだまだこれから」をプリントしたTシャツも。先生は90歳になられましたがお元気でOB席を回られ立ったままで歓談されました。まだまだこれから100歳に向けてお元気で過ごされることをお祈りいたします。

お孫さんお二人には今後の走り高跳びへのご活躍を祈念し、激励品をお渡しました。

最後は、5期本郷政人さんの閉会の言葉で終了し全員での写真撮影となりました。次回は5年後10年後の開催を夢見て雨の中2次会に行く人、帰路に着く方と皆それぞれの思い出を胸に散会しました。



後列／衛藤昂・59H佐野62H川村・60E阪口・56C原・62M岡本・62C高木・62C清水・57E坂中列／勝田将・衛藤久美子・59M辻・57E寺尾・55C上田・54M内山・55C藤井・56M伊藤・55M藤松・54C藤後・58M西・56H前田・58E渡辺前列／51E小中・49H長谷・47C田中・47E山本・44M吉川・43M浜口・勝田先生・42M伊藤・46C本郷・46E森下・47E伊藤・47H西井・53E伴

転任教員挨拶

転任のご挨拶

2025年3月をもちまして、鈴鹿高専の電気電子工学科を退職し、同年4月より滋賀県立大学 高等専門学校開設準備局に着任いたしました。

鈴鹿高専には2015年4月に着任し、気がつけば10年があつという間に過ぎました。その間、多くの教職員の皆様に支えていただき、心より感謝申し上げます。

在職中は、担任を2年間、研究主事を3年間、学科長を4年間務めさせていただきました。これらの業務は、ひとえに学科の皆様のご協力があつてこそ成し遂げられたものであり、改めて厚く御礼申し上げます。

現在は、2028年4月に開校予定の滋賀県立高等専門学校の開校準備に携わっております。電気電子コースのカリキュラム作成や地域連携の業務などを担当しており、鈴鹿高専での学科長や研究主事としての経験が大いに役立っています。最近、校舎の完成予想図もようやく完成いたしました。現時点ではまだ建物も何もない状態であり、開校に向けてやらなければならないことが山積しています。

新たな学校づくりという未知の挑戦の中で、私自身も学ぶことばかりです。今後とも、皆様にご相談・ご助力をお願いすることがあるかと思

横山 春喜

いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

県立の高専ということで、国立の高専とは運営体制に違いはありますが、鈴鹿高専に負けないような魅力ある学校を目指して尽力してまいります。末筆ながら、鈴鹿高専の今後のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。



退職教員挨拶

定年退職の挨拶

電子情報工学科 教授 飯塚 昇



私は2013年4月に電子情報工学科で採用され、2025年の3月で定年退職となります。12年間ありがとうございました。特

に、電子情報工学科の先生方には大変お世話になりました。12年間のうち6年間は学科長を務めさせていただきましたが、この業務は学科の皆様の協力なしには実行し得ないものでした。厚く御礼申し上げます。

私はこちらでお世話になる前は民間企業にあり、自身の転職と企業のM&Aで富士通、日本テレコム(JR系、欧州外資、北米外資)、ソフトバンクテレコムと所属を変えてきました。ソフトバンクテレコム在籍時には東北大学客員教授も兼務しておりました。学生の進路指導では、製造業、社会インフラ企業、IT企業、大学の客員教授の経験が思った以上に役に立ちました。「毎年40名の新しい子供ができ1年間で親元を去っていく」様な進路指導の業務は、私にとっては非常にやりがいがあり満足度の高い経験でした。このような機会を与えてくれた電子情報工学科の卒業生にも感謝したいと思います。

定年退職の挨拶

教養教育科(数学) 伊藤 清

頻繁に宿題を出してきましたので、今度は自分の番かと思い記憶に残ることなど簡単にまとめてみます。

私が鈴鹿工業高等専門学校に就職したのは35年前なので、今とはずいぶん違いました。高専の正門前には旧海軍航空隊の大きな格納庫を改修し使用する電気通信学園があり、学校から23号線まで行く途中には水田が広がるのどかな環境もありました。数学の授業も大日本図書の教科書に従い大まかに範囲が決められていましたが、シラバスという概念がなく各教員がそれぞれの裁量で授業をしていました。資料や定期テストも手書きで作成したこと、欠点が55点未満だったこと、たとえ欠点であっても仮進級の制度があり夏に指導を受けて試験に合格すれば進級扱いになっていたことなどを覚えています。

森北出版の教科書の方が総じてより易しくまとめられていたのでそちらに変更してもらったのですが、5年前くらいに数学の授業も時間数を減らさなければならなくなり比較的コンパクトにまとめてある数理工学社の教科書へと再度変更させていただきました。

初めは高専すぐ横の官舎に住んでいて、なるべく環境に良い生活をしようと電力自給をしたこともあったのですが、25年前に結婚して桑名に引っ越し今は普通に暮らしています。

写真は先人たちの治水事業を眺めることができる多度山頂での一枚です。鈴鹿高専が末永く続くことを祈念します。



新任教員挨拶



着任のご挨拶

教養教育科

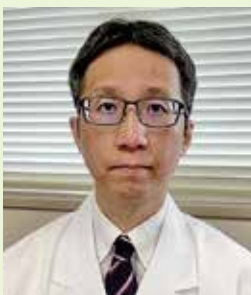
園田 昭彦

4月1日付で鈴鹿工業高等専門学校教養教育科に着任いたしました、園田昭彦と申します。前職は徳島県の阿南高専で教育研究に従事していました。担当科目は1年化学、2年化学、化学特講です。専門はゆらぐ系での熱力学で、化学と物理と数学の境界分野を研究しています。学生時代から素粒子のようなミクロの世界に興味があり、超弦理論に関する研究していましたが、最近ではそれよりも大きいナノスケールや生体分子レベルなどの微小系に存在する熱的ゆらぎに興味をもって研究し



ています。

高専では、非常勤講師をしていた期間を含めると10年間お世話になっています。過去には担任、教務・寮務主事補、キャリア支援室、広報室、学生相談室などを担当しており、それらの経験を活かして鈴鹿高専に貢献していきたいと思います。学生の皆さんには、分かりやすい授業を提供することを心掛けて、勉学のみならず課外活動や大学編入などの進路指導にも積極的に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

材料工学科

東條 敏史

このたび4月1日付けで鈴鹿工業高等専門学校 材料工学科に講師として着任いたしました東條敏史と申します。

東京工業大学(現 東京科学大学) 生命理工学部、京都府立医科大学 医学部、東京理科大学 理工学部、東京理科大学 薬学部と色々なところに所属していましたが、初めて高専で研究・教育に携わることになりました。

専門は有機合成化学および創薬化学です。「こんな構造を持っていたら、薬としてこんな機能を発現できるのではないか?」と分子を



デザインし、有機化学を駆使して自ら作り上げて、実際の機能を評価する研究をおこなっています。

教育に関して、これまで大学教育に携わった経験があり、高等学校教諭専修免許状(理科)を有しております。これらを活かして、学生の皆さんが自ら興味や関心を持って行動できる姿勢が身につくような授業をおこなっていききたいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

お知らせ

鈴鹿高専青峰同窓会の皆様へ

同窓会幹事より

同窓会報をご覧いただき、ありがとうございます。私は平成14年度機械工学科卒業(H10M)で会計を務めております真伏と申します。

執筆時点の8月現在、生活に必要なガソリン価格はやや落ち着いたものの、依然として食料品をはじめ多くの物価が上昇しており、日々その影響を実感しています。

このような社会情勢の中、同窓会報についても例外ではなく、印刷や発送にかかる費用は年々増加しております。私が鈴鹿高専に着任して間もない頃は、年間の印刷発送費は約75万円でしたが、昨年度は140万円とおおよそ2倍にまで膨れ上がりました。

こうした背景を踏まえ、本年(2025年)発行分をもって紙の会報は終了し、以降は電子版へ移行する方針となりました。

さて、本校ではエアコンや無線LANの整備、部活動顧問の外部委託による働き方改革が進み、教員や学生にとって、より快適な研究・学習環境が整いつつあります。その反面、施設維持費や電気代、人件費の高騰により、部活動や高専祭など、勉学以外の学生生活への支援には十分な予算が確保されていない現状もあります。

現在、同窓会の収支には約3,000万円弱の繰越金と、年間200万円程度の新規会費収入があ

ります。これまで継続して支援してきたロボコン・プロコン・エコカー・デザコン・GCONといったプロジェクト活動への寄付(先進的エンジニア教育支援基金)は今後も続けながら、加えて高専祭や部活動など、より多様な学生生活への支援を強化していく予定です。支援内容の詳細については学内幹事を中心に検討中ですが、今後の会報では会計報告だけでなく、寄付物品の贈呈式の様子などもお伝えしていく予定です。

今年度より、高専祭実行委員への支援(現金・物品)を先行して開始いたしました。これまでの高専祭では、休憩や歓談に適した場所が限られていたことから、今年はイノベーション交流プラザ(旧3寮)の一部を、同窓会会員の皆様向けに休憩スペースとして開放する予定です。休憩スペース隣には「50周年記念ギャラリー」も併設されており、高専の歴史を振り返ることができます。

今年度の高専祭は、11月1日(土)・2日(日)に開催予定です。ぜひご来場いただき、現在の高専生の姿をご覧いただければ幸いです。終了時間が早めに設定される場合がございますので、午前中からご来校頂くことをお勧め致します。

拙い文章ではございますが、同窓会費をより有意義に活用するためにも、皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



同窓会会報 郵送終了のお知らせ

青峰同窓会の皆様、お変わりなくお健やかにお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。日頃は同窓会の運営にご理解ご支援いただき誠に有難うございます。

さて、これまで同窓会会員約7000名の皆様方に毎年一報の青峰同窓会会報を郵送させていただいてまいりました。しかし、昨今の郵送料の高騰（発送経費140万円）、宛先不明で返送されてくる部数が毎回200部を超え、その度に宛先の再整理はしているもののその現状に改善がみられないこと等の事情があります。この様な状況を鑑み、今回の会報を最後に会報の郵送を終了し、今後は、毎年、9月末をめどに鈴鹿高専ホームページ内の同窓会のページ

(<https://www.suzuka-ct.ac.jp/~almn/>)もしくは右記のQRコードからアクセスしてください)に会報を掲載する事にのみにとどめたいと考えて

います。何卒、ご理解のほどよろしくお願いいたします。また、皆様の交流の場として鈴鹿高専同窓会SNS(Facebook)にコミュニティーラウンジがございます。そちらもご活用ください。

なお、これまで発送経費に使用されていた経費は、高専祭運営、課外活動を含む種々の学生支援へのサポート等に役立てたいと思っています。また、来る70周年記念イベントへの寄付や卒業生の皆様へご提供できるサービス等に関しても今後検討し実現してゆきたいと考えています。

今年の高専祭は、11月1日、2日の土日に開催されます。卒業生の皆様がお集いになれるエリアもご用意させていただく予定です。ぜひ、母校にお足をお運びください。

青峰同窓会HPへのアクセスはこちらのQRコードからどうぞ



2024年度 青峰同窓会 会計報告

収入の部

摘要	金額 (円)
・2023年度からの繰越金	28,103,691
・2024年度新入会員(2023年度 卒業生)入会金・終身会費(189名)	2,079,000
・預金利息	6,241
合 計	30,188,932

支出の部

摘要	金額 (円)
・会報発行(印刷・袋詰め・宛名)	559,158
・会報発送(郵送)	863,800
・先進的エンジニア育成基金寄付(2024年度分)	999,780
・同窓会印購入	3,680
・PC購入(会報作成、事務用)	99,800
・カード発行手数料	1,100
・振込手数料	660
合 計	2,527,978

繰越金

摘要	金額 (円)
・2025年度への繰越金	27,660,954
支出と繰越金の合計	30,188,932

高専祭における 青峰同窓会様専用休憩スペース設置のご案内

青峰同窓会の皆様には、平素より温かいご支援を賜り誠にありがとうございます。皆様からのご支援のおかげで、今年も無事に高専祭を開催することができました。心より御礼申し上げます。

この度、高専祭実行委員会では、同窓会の皆様にゆっくりと休憩・交流いただける専用スペース【イノベーション交流プラザ(旧3寮)の50周年記念ギャラリー】をご用意いたしました。

受付にてお名前と学籍番号をお伝えいただければ、どなたでもご利用いただけます。ぜひご来場の際はお気軽にお立ち寄りいただき、懐かしいひとときをお過ごしください。

第60回 鈴鹿高専 高専祭

Orbit

2025 | 11.01 土 | 11.02 日 | 9:00 open

[場所] 鈴鹿工業高等専門学校
白子駅より徒歩28分
東旭が丘三丁目バス停より徒歩8分
駐車場あり
(公共交通機関での来場にご協力お願いします)

[お問い合わせ] snctfesta.contact@gmail.com

ホームページ Instagram X (Twitter)

編集後記

毎年のことながら、今年は取り分け暑い日が続いているように感じます。皆様如何お暮しですか。私事で恐縮ですが本当に色々ある年でした。3男の結婚、日韓交流テニスでソウル遠征、自分の白内障手術。皆様も次の言葉を胸に頑張ってください。「mens sana in corpore sano. メンス サーナ イン コルポレ サーノ；健全な精神は健全な肉体にあり。」今回で編集担当を終わります。それでは皆さんお元気でお過ごしください。

〔奥 貞二〕